

県の水産分野で活躍した人に贈られる県水産賞贈呈式が、1月22日に青森市の県民福祉プラザで行われ、敦賀勝正さん(浜町)がその功績を認められ、受賞しました。1月30日(木)には町長を訪問し、その受賞を報告しました。

敦賀さんは、小泊港で船主船長としてイカ釣り漁業に従事しています。県の漁業やイカ釣り漁業の経営安定とスルメイカの資源管理を図ろうと、漁の休日や漁獲量制限を設定するため地域業者の同意を取り付けるなど、資源管理型漁業の構築推進に尽力しました。さらに漁業者に漁業共済制度の重要性を訴え加入率の向上に貢献しました。

この日の報告で、敦賀さんは「長年漁師を続けてよかった。これからも若手の育成など漁業の発展に努めたい」と話し、これに対し小野町長は「敦賀さんにはイカ釣り協議会の会長として町・県の水産業に多大な貢献をいただいている。今回の受賞は大変喜ばしいこと。漁師のみなさんにとりまく環境は依然として厳しいと聞いているが、今後も町漁業を盛りあげていただきたい。」と受賞を祝いました。



敦賀勝正さん

## 生きたタコにびっくり

なかどまりイガ米  
～きてけフェア



動いてるー！



品定めする買い物客

特産品などで町をPRするイベント「なかどまりイガ米～きてけフェア」が、2月8日(土)、9日(日)の2日間、青森県観光物産館「アスパム」で開催されました。

このイベントには、町内から14団体が参加。海産物、野菜、加工品を野外と屋内に店を構え、それぞれ販売・PR活動をしました。

今年は天気心配されましたが、冷え込みが厳しいにもかかわらず、多くの買い物客や観光客が集まり、平年並みの売上となったようです。

屋外の販売コーナーでは子どもたちが、ゆでる前の元気な活ダコに「キヤー」と怖がりながらも、触って楽しんでいました。

イベントに参加したスタッフは「ヤリイカ釣りを楽しみにしているリピーターもいるが、時化でイカの調達ができず残念ながら中止した。それでも活ダコに触れたり楽しんでもらったと思う」と話していました。



野外販売コーナー

